■岩本栄之助　　株式仲買人。アメリカ文化に感銘受け，大阪市中央公会堂のため大金寄付するも，竣工前に破産し，自殺。
いわもとえいのすけ
西南戦争・・1877＝　　大阪市南区安堂寺橋通で，**_両替商{銭屋(銭栄)}を営む岩本栄蔵の次男に生まれる。**
大久保暗殺・1878＝ 1歳：この年，大阪株式取引所が設立される。
父栄蔵は，和歌山県海草郡生まれで，20歳の時に大阪に出，刻苦蓄財して両替商を経営し，実直な人柄で，信用も厚く，
明治14年政変1881＝ 4歳：

岩倉具視没・1883＝ 6歳：渥美小学校に入学。
秩父事件・・1884＝ 7歳：父栄蔵は，以後10年，市内四区両替商総取締を務めるほどであった。
内閣発足・・1885＝ 8歳：この年，大蔵卿松方正義が紙幣の正貨兌換開始を建議し，
帝国大学始・1886**＝ 9歳：**紙幣の銀貨兌換によって，いわゆる"松方デフレ"の不況になると，父栄蔵は，インフラ株買いに走り，

父栄蔵は，この間の，企業勃興，経済界好転によって，
帝国憲法発布1889＝12歳：莫大な利益を挙げ，{銭屋}の基盤を強固なものにした。卒業して，市立大阪商業学校に入学，

大本教・・・1892＝15歳：跡継ぎになるはずの長男栄治郎(栄之助の兄)が急逝したため，

日清戦争始・1894＝17歳：**_市立大阪商業学校本科を卒業すると，家業を手伝い始めるとともに，大阪清語学校・明星外国語学校に通い，商業学及び外国語(英，仏，中国語)に熱を入れる。**
日清戦争終・1895**＝18歳：**日清戦後の賠償金による好景気のなか，
白馬会・・・1896＝19歳：この年，大阪手形交換所が開業，
八幡製鉄始・1897＝20歳：この年，鴻池銀行，北浜銀行が開業。**_徴兵検査で甲種合格，第四師団に入営し，一年志願兵となり，**
子規句歌革新1898＝21歳：**_陸軍歩兵少尉に昇進，士魂商才の人になって，家業に戻り，**
Bushidou・・1899＝22歳：株式仲買に手を染め始める。
次々と企業が設立されるなか，俳句をたしなみ，書家に入門して達筆になるなど，余裕もあるが，

日露戦争始・1904**＝27歳：**住友の寄付で，中之島に大阪図書館が開館した直後，**_日露戦争が始まると，召集されて，大阪第四師団兵站司令部副官となって転戦，陸軍中尉となり，剛毅で思いやりの性格を，陸軍大将児玉源太郎に愛され，**
日露戦争終・1905＝28歳：**_凱旋，**
満鉄発足・・1906＝29歳：**_勲六等単光旭日章。児玉源太郎の死に悲嘆。父栄蔵から，家督を譲られ，大阪株式取引所仲買人となる。**
韓国反日暴動1907＝30歳：**＊戦後，急騰してきた株式が一転大暴落，野村徳七ら大阪株式取引所の仲買人らの訴えで全財産を投じて市場を買い支え，北浜の仲買人らを救う。その確固たる信念と，信念を曲げない勇猛心で，株式界に認められるところとなる。また，学問を重視し，取引所で働く少年たちのために，学校に行くように勧めるとともに，私財を投じて塾を作るなどし，ますます人気が出て，"北浜の風雲児"と称えられる。**
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝31歳：公共のために，相当な事業をしたいと，親友の竜村平蔵らに相談し始めるなか，国民の対米感情が悪化への，小村寿太郎の深慮の招聘，アメリカ西海岸の実業団が来日，大歓迎したところ，
伊藤博文暗殺1909＝32歳：**_アメリカからの答礼招待で，財界が結成した渡米実業団の正賓となり，アメリカを視察。社会のために遺産を寄付することに感銘を受け，自らもの思いを抱き，視察中に父病死の知らせを聞き，一人途中帰国，**
韓国併合・・1910＝33歳：京都の呉服店の娘遠藤てると見合い結婚。**_渡米実業団の団長だった渋沢栄一にも相談し，**
大逆事件判決1911＝34歳：**＊大阪市に金百万円の寄付を発表。昵懇の北浜銀行頭取岩下清周と，"商業学校""奨学資金""公園""公会堂"の四案について議論，市民の誰もが利用できる"中央公会堂"建設案に決定。渋沢栄一はじめ，高崎大阪府知事，植村大阪市長その他関係者を招いた父栄蔵の追善茶会で発表，新聞でも大々的に報道され，特大のセンセーションを巻き起こした。具体化には，財団法人を組織して全てを委託し，竣工後，市に寄附することにし，許可を得た財団法人公会堂建設事務所の建築顧問として辰野金吾を迎え，**
明治天皇没・1912＝35歳：大阪株式取引所仲買人組合の委員長に就任。**_先例の無い指名コンペにより，岡田信一郎が選ばれ，**
大正政変・・1913**＝36歳：_着工し，**
第一次大戦始1914＝37歳：実業の世界で生きるべく，退任。大阪の夜を明るくしたいと，大阪電灯の常務取締役も務める。
21ヶ条要求・1915＝38歳：**＊定礎式も行われたが，**
民本主義・・1916＝39歳：**＊第一次世界大戦のバブルで，大衆の買いが殺到，格言通り売りに回るも，相場は動かず，大損失を被ると，{銭屋}の全ての使用人と家族を宇治への松茸狩りに出したあと，自宅の離れ屋敷に入り，陸軍将校時代に入手した短銃で自殺を図り，5日後に没した。**
辞世は「その秋を　またで散りゆく　紅葉かな」。その後も大阪市中央公会堂の工事は続けられ，2年後に竣工，地下1階には，"岩本記念室"が設置され，銅像と遺品が展示されている。

インターネットWikipedia。伊勢田史郎「またで散りゆく　岩本栄之助と中央公会堂」で大幅に追補，